

「おかげさま」と「お互いさま」の心

穏やかな正月を迎え、令和6年が始まりましたが、元日の夕刻に「令和6年能登半島地震」が発生しました。この地震で犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の意を表します。また、被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、被害がこれ以上大きくなりませんように、皆様の安全と一日も早い復旧を心からお祈りしています。

今回の地震には本当に驚きました。まさか元日にこんな災害が発生するなんて、だれが予想したことでしょう。改めて、災害がいつ起こるかわからないことを実感するとともに、みなさんのお家でもご家族で災害発生時の対応について確認されたことと思います。学校でも、学期ごとに避難訓練を行っていますが、周りに親や先生がいないときに災害が起こることもあり得ます。だからこそ、普段から防災意識を高く持ち、いざという時、命を守るためにどんな行動をとるべきか、自分自身で判断する力を身に付けることが大切です。まもなく、阪神・淡路大震災から29年めの1月17日を迎えます。毎年、1月17日が近づくと震災に関連する話題が報道で流れます。地震と背中合わせの日本で生きていく私たちだからこそ、この機会に、改めて、防災意識を高めていきましょう。

さて、話は変わりますが、私(校長)は、毎年、お正月に、お世話になっている恩師のお宅に年始の挨拶に伺い、いろいろな話を聞かせてもらいます。今年は、前述の地震が発生したこともあり、『おかげさま』と『お互いさま』の心』についてのお話を聞かせてもらいました。

私たちは決して自分一人では生きられません。家族、友達、先生、地域の方々など、多くの人々とのつながりの中で、さまざまな支えがあって生きています。いや、生かされています。今いる周りの人だけでなく、ご先祖様や人類の祖先たちの成功も失敗も含めて、先人の努力や犠牲を受け継いで、今を生かされているのです。また、大自然からの恩恵等、人間以外のものにも生かされています。そんな自分を支えてくれているすべてのものへの感謝を表す言葉が「おかげさま」です。

また、私たちは決して完璧な存在ではありません。うっかりミスをすることもあるし、知らず知らずのうちに、誰かに迷惑をかけていることもあります。そんな時、誰かのお世話になっていることがあります。また、逆に誰かの支えになっている時もあります。互いに助け合い、支え合っていることを自覚すると、自分も誰かのお世話になっていることや他人のために奉仕することの大切さがわかってきます。また、相手を許す気持ちも湧いてきます。そんな思いを「お互いさま」という言葉で表現します。

「自分が、自分が」と自分の主張ばかりしていたら、ぎすぎすした生きにくい世の中になってしまいます。うまくいったら「おかげさま」、相手が失敗したり困っていたら「お互いさま」。謙虚さや反省の心を引き出してくれる、この二つの大切な言葉を常に意識して、広く社会(学校・地域・家庭)に目を向けて「自分にできること」を実践していきたいものです。

3学期は、新年度の0学期

さて、今日から始まる3学期は、4月から始まる新年度の0学期と言われることがあります。それは、1年間のまとめをするだけでなく新年度4月からスタート準備をする、短くも大変重要な3ヶ月だからです。

3年生にとっては、進路を決める大切な時期であるとともに3年間共に過ごしてきた友だちや後輩と過ごす最後の時です。だからこそ、仲間とともに過ごす時間を大切に、互いに高め合い、4月から始まる新しい生活に向けて、1日1日を有意義に過ごしてください。

1、2年生にとっても今のクラスの仲間とは最後の時となります。そして、4月には、2年生は最高学年に、1年生も先輩と呼ばれる立場になります。今のクラスの仲間とともに、1年間の総まとめをして、新たな学年への準備をしてほしいと思います。

4つの「めざす生徒像」とともに、3年生は「いかに北大路中を卒業するか」、2年生は「いかに北大路中を引き継ぐか」、そして、1年生は「いかに北大路中生を迎えるか」を意識しながら、みなさん一人ひとりが新年度に繋がる充実した3学期にしてほしいと思います。